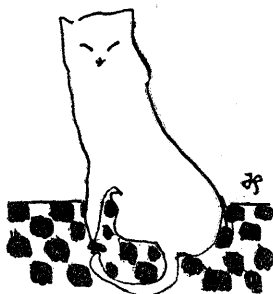


# 保育者と研究



山下 俊郎

去る五月二十六、二十七日の両日、長野県の諏訪市で、同市所在の長野県立保育専門学院を当番校として、日本保育学会第九回大会が開かれた。三十一に及ぶ研究発表があり、参会者千二三百人という盛会であった。わたくしも参会し、大会を終えて帰京してまだ数日しかたっていないので、大会の際の所感から、「保育者と研究」ということを思いつくままにひろい出してみたいと思う。

もともと研究というものには二通りの立場がある。その一つは純粹の理論的研究であり、ほんとの研究のための研究である。そしてその二は、実際の役に立てるための実際的研究である。

保育の現場にある人々が何か研究しようとするとき、純粹の理論的研究をすることは、もちろんその人の自由ではある。しかし、その研究はおそらく保育の現場とはすぐにはつながらないものであり、やや縁遠いものになってしまうであ

ろう。そして、研究は研究、仕事は仕事と離れたものになってしまうであろう。この場合は、研究はいわば研究としてまったく遊離したものになってしまうと断言していいであろう。わたくし達は保育に関するこのような研究には別に保育者をもたなくても、関係する心理学なり医者なりの専門家に期待すればよいと思う。

わたくし達が保育者に期待し、保育者に研究してもらいたいと思うのは、保育の現場にいる人でなければとらえられない問題を、その現場の問題解決のために研究してもらおうことである。実際の保育技術の進歩のためになさるべき研究は、まさにこのような研究であり、このような研究は保育者をまたないでは期待できないものなのである。いま右に述べた理論的な研究のまねごとのような研究は、保育の実践家にはむしろやってももらいたくない。保育者には保育者でなければできない研究をやってもらうことが、保育の発展のために必要なのである。

ところで、先般の日本保育学会の大会の場合に限らず、保育関係の研究會、協議會などにおける研究発表には、必ずといっていいくらい、保育者による研究として右の二通りの研究が見受けられるようである。しかし、保育者による研究は、保育者でなければできないような研究であることが何よりも望ましいと思う。

そこで、保育者による実際的な保育の研究というのはどういう意味を持ち、どうあるべきものかということを少し考えよう。

すべて、実際のな技術に貢献するような研究というのは、ある一定の方法にしたがってやったことの結果がうまく行っているかどうか、その効果があがっているかどうかを確かめるといふ研究である。それぞれの方法によって保育したら、それぞれの結果が幼児たちの上に出たということが出て来て、その結果に対して実際のな判断が下されることによつてうまく行つたか行かないかが決定される。

その場合、いまかりに一定の方法といつた方法は、きちんと一定の内容を一定の順序に運んで行くことでなければならぬ。というのは、その方法はその方式のもとにやつていけば、どんな人がやつてもそのとおりに行つて行くように組織されたものであることが必要條件である。言葉をかえていえば、誰か特定のひじょうに優れた人でなければやれないような方法ではこまるのである。つまり、誰にでもできるように、はっきりとした形に分析されていることが必要なのである。

このような内容や方法の分析は、そう簡単なことではないので、どういふ風にやつたらいいか、ということについては、学者が今までにいつてきているいろいろの知見をかりることが必要であらう。そうでないと、いい加減なあいまいなものになつてしまふ危険があるからである。

また、やつた方法のもたらした効果の判定ということについても、どういふ方法でどういふ風に判定するかということについても、現在の進歩した方法に基かないと誤りを犯すことになりやすい。だから、この点についても、それぞれ関係する学問の領域からいろいろと力をかりることが必要であら

う。

いま述べたいろいろの点は、研究というものを進めて行く上の方法上の問題に係属している。そして、このことはひじょうに大切なことなのである。というのは、もし研究の方法に欠陥があつたら、研究の結果はその信頼度がなくなつてしまふからである。方法はどこまでも厳密でなければならぬ。そして、方法が厳密で誤りがないようにするために、保育者はじゆうぶんの用意をすることが必要である。

わたくしは、研究、とくに科学的な研究というのは、その研究がさきにも述べたように保育の實際に係属するものである限りは、ある一定の方法で保育を行えば、その結果は必ずこの通りになる、ということを示すものであり、そうでなければならぬものであると思う。

保育の技術にすぐれた天才を持っている人、また長年の経験からすぐれた技術を身につけている人、こういった人々は、その人としての優れた保育者であらう。しかし、それはその人っきりのものである。科学的な研究というのは、このような特殊な天才の所有である保育の技術を、誰にでも行えるようにするものである。そして、その根柢をしっかりとさせるために、いま右に述べたようないろいろの分析を必要とするのである。

保育者は保育者でなければできない研究を、しかし、その方法はどこまでも厳密にして、すべての保育者が優れた保育者になれるように、研究すべきであると思う。

(一九五六年五月三十一日)